

北町ロケット②

植松 努 電機メーカー専務 (H28/5/9の再放送)

2016年8月24日
NHKラジオ
明日への言葉

先生は計算はするが設計図を一つも書かなくて好きに作ってくれと言って、勝手に改良出来ちゃうんです。

最初は大学生が図面を書いてくれましたが、その図面だとある部品を丸棒から削らなくてはいけなくて、パイプではと提案したりして一気に部品価格が安くなりました。一回の実験には一個のエンジンでないといけなくて、設計を作り易くして、作る時間も少なく、自動的に安いエンジンになってしまった。(2005年頃)当時10人、今は19人になりました。ロケットを作る話をしたら、最初はみんな遠まきに見ていました。段々周りも自分でもできるかもしれないと思うようになって、一緒にやるようになりました。「無理だ」と思ったら出来ないけれど「出来るかもしれない」と思ったら出来る気がする。いまでは修学旅行に年間1万2000人が来ています。(赤平市は1万2000人を切っています。)

ロケットエンジンを燃やして見せて、燃料はペットボトル1本分だよ、仕組みは簡単だよと言って見た子供達は自分にもできるかもしれないと思ってくれるだろうと思っています。

2005年に初めて飛ばした時には、絶対失敗すると思っていたが、よろよろと上がってゆき加速して行ってエンジンの音が物凄くて飛んで行く姿を見て、こんな嬉しいことはなかった。物凄く荒れていた学校に呼ばれた時にも、最初は大変だったが、ロケット作るときにも出来たら、他の人に教えたりして、出来たロケットを飛ばして、私たちの道具をかたづけられて車まで運んでくれて今日はうれしかったと言ってくれた。

誰かが彼らの自信を奪って、強がって誰かの自信を失おうとした、小さなロケットが飛んだ時に小さな自信がわいて元通りに優しくなったと思うので、どうか子供の自信を奪わないでほしい、自信を支えてほしい。

夢を潰そうとする人は沢山いて、そういう人に負けないで夢をかなえてくれた人はきっと誰かほかの人の夢を支える人になるはずなので、そういう人が一杯増えたらいいなあと思います。

次のステップを考えていて教育をやりたいと思っています。

経営者が持っている能力は責任と判断だと思っています、経営者は自己責任で藪を漕いで歩くべきだろうと思っています、面白い道を見つけてくるのが私の仕事だと思っています。

マグネットで利益を出しているの、宇宙開発でお金を稼ぐ必要はないんです。

宇宙は南極と同じ様に公共の場所だと思っているので、宇宙は商売はしてはいけないんだと思っています。

宇宙で実験をしたいと思っている人にとっては、安く飛ばせるロケットの実用化は絶対しなければいけないと思っています。

宇宙は教育に使えると思っています。

以前アフリカの人に来てくれて、アフリカでも宇宙開発をしたら、教育できるかもしれないと言ってくれた。

勉強って努力が必要、努力するためには喜びが必要で、喜びがお金だったら勉強するより手っ取り早く稼ぐことがいっぱいあり、喜びがお金でなければ勉強が生まれるかもしれない。

それは夢、希望でそれは宇宙かも知れない、宇宙開発を夢にすることができればもっと勉強を頑張れるかもしれないと言ったので、それはありだと思った。

一生懸命工夫をしてくれる人がもっと増えたら、色んな産業全部良くなると思っています、そういった人を育てる修練の場として宇宙開発を使ったらいいのかなと想っていて今実験的に試している。

新しい仕事は悲しいこと、苦しいこと、不便な事を解決しようと言う事から生まれてくる。

それは優しさです、人が苦しんでいるのを見ても何にも思わない人は改善しようとは思わないから発明できない。

優しさは自信から生まれてくるので、自信を奪われない子が増えればきっと世の中は良くなるかもしれないと思います。

やがてこの世からいじめ虐待、「どうせ無理」という言葉が無くなるかもしれないので、いろんな人から宇宙開発の応援してもらえればうれしいと思います。